学　会　記　事

特定非営利活動法人日本火山学会
平成 27 年度定例総会議事録

1. 日　時：平成 27 年 5 月 26 日
   12 時 30 分から 13 時 30 分
2. 場　所：千葉市幕張　幕張メッセ国際会議場
3. 出席者：維持会員 47 名，有効委任状数 61 通，合計 108 名
4. 議　案：
   1. 平成 27 年度事業経過報告の件
   2. 議事録署名人承認の件
5. 議事の経過の概要及び議決の結果

出席者（委任状を含む）が 108 名で，維持会員 276 名の 3 分の 1 以上である定足数 93 名を超えていることを確認し，議長（定款により学会の会長）が平成 27 年度日本火山学会通常総会の開会を宣言した.

（1）　第一号議案

平成 26 年度決算および平成 27 年度予算の件

平成 26 年度の決算報告が担当理事より報告された（資料 1）．また会計監査結果についても監事から報告された（資料 2）．これらについて議長が諮り，全員異議なくこれを了承した.

平成 27 年度の予算案について担当理事から説明が行なわれ（資料 3），これに基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した.

（2）　第二号議案

理事選挙規程の改訂の件.

庶務担当理事より理事選挙規程の改訂案（資料 4）が説明され，これに基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した.

（3）　第三号議案

2015 年度火山学会賞，火山学会奨励賞，火山学会論文賞候補の件.

2015 年度日本火山学会各賞候補者について担当理事からの選定報告（資料 5）に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した.

（2）　第二号議案　議事録署名人承認の件

議長より本日の議事をまとめるに当たり，議事録署名人 2 名を選出することを諮り，萬年一剛氏および藤田英輔氏を選出することを全員異議なく承認した.

以上，この議事録が正確であることを証します.

平成 27 年 12 月 8 日

議　　長　井口正人　印
議事録署名人　萬年一剛　印
議事録署名人　藤田英輔　印

（資料 1） 平成 26 年度決算案

平成 26 年度収支計算書

特定非営利活動に係る事業会計（単位：円） 平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日

科目	予算額	決算額	増減
【経常収入の部】			
会費収入	7, 945, 000	8, 280, 000	335, 000
寄付金収入	0	24, 000	24, 000
補助金等収入	1, 200, 000	925, 700	－274, 300
事業収入	3, 100, 000	3, 408, 571	308, 571
その他収入	250, 000	181, 205	－68, 795
経常収入合計	12, 495, 000	12, 819, 476	324, 476
【経常支出の部】			
事業費			
火山学に関る定期大会等の開催費	2, 581, 000	1, 665, 243	－915, 757
会誌機関紙研究報告書等発行費	5, 750, 000	3, 853, 344	－1, 896, 656
公開講座講演会等開催費	1, 250, 000	925, 700	－324, 300
火山学の普及啓発に関する事業費	6, 230, 000	3, 403, 992	－2, 826, 008
火山学に関する研究奨励表彰費	450, 000	23, 200	－426, 800
助成金支出	600, 000	600, 000	0
期首・期末棚卸差額	0	－79, 785	－79, 785
管理費	8, 222, 000	6, 785, 307	－1, 436, 693
経常支出合計	25, 083, 000	17, 177, 001	－7, 905, 999
計上収支差額	－12, 588, 000	－4, 357, 525	8, 230, 475
【その他資金収入の部】			
収益事業会計からの繰入収入	0	15, 000	15, 000
【その他資金支出の部】			
予備日	500, 000	0	－500, 000
その他資金支出合計	500, 000	0	－500, 000
当期収支差額	－13, 088, 000	－4, 357, 525	
前期繰越収支差額	25, 196, 310	25, 196, 310	
次期繰越収支差額	12, 127, 863	20, 793, 553	
《正味財産増減の部》			
当期正味財産増減額	－13, 088, 000	－4, 342, 525	
固定資産額	21, 581, 106	21, 581, 106	
期末棚卸高	2, 803, 035	2, 882, 820	

財産目録　［税込］（単位：円）
特定非営利活動法人日本火山学会　平成 27 年 3 月 31 日現在

《資産の部》			
【流動資産】		28, 820, 469	
現金・預金	24, 246, 202		
未収会費	701, 000		
棚卸資産	2, 882, 820		
未収金	972, 774		
前払費用	17, 673		
【固定資産】		21, 581, 620	
その他の固定資産	6, 946, 810		
有形固定資産　合計	14, 634, 810		
資産の部　合計			50, 401, 575
《負債の部》			
【流動負債】		5, 144, 096	
前受会費	5, 122, 000		
預り金	22, 096		
負債の部　合計			5, 144, 096
正味財産			45, 257, 479

（資料 2）

平成 26 年度会計監査報告

特定非営利活動法人日本火山学会定款第 6 章第 49 条により，平成 26 年度の事業・会計収支状況，預金・為替等の帳簿を監査した結果，適正に執行されていることを認めます.

平成 27 年 4 月 23 日

特定非営利活動法人日本火山学会　会計監事
平林順一　印
鵜川元雄　印

(資料 3) 平成 27 年度予算案

平成 27 年度　予算書　　平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

特定非営利活動に係る事業会計（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	前年度決算額	予算額差異
【経常収入の部】				
会費収入	8, 117, 000	7, 945, 000	8, 280, 000	172, 000
寄付金収入	0	0	24, 000	0
補助金等収入	1, 200, 000	1, 200, 000	925, 700	0
事業収入	3, 135, 500	3, 100, 000	3, 408, 571	35, 500
その他収入	203, 000	250, 000	181, 205	−47, 000
経常収入　合計	12, 655, 500	12, 495, 000	12, 834, 476	160, 500
事業費（小計）	19, 099, 000	16, 861, 000	10, 471, 479	2, 238, 000
火山学に関る定期大会等の開催費	3, 539, 000	2, 581, 000	1, 665, 243	958, 000
会誌機関紙研究報告書等発行費	7, 050, 000	5, 750, 000	3, 853, 344	1, 300, 000
公開講座講演会等開催費	1, 250, 000	1, 250, 000	925, 700	0
火山学の普及啓発に関する事業費	5, 980, 000	6, 230, 000	3, 403, 992	−250, 000
火山学に関する研究奨励表彰費	480, 000	450, 000	23, 200	30, 000
助成金支出合計	800, 000	600, 000	600, 000	200, 000
期首・期末棚卸差額	0	0	−79, 785	0
管理費	8, 648, 133	8, 222, 000	6, 785, 307	426, 133
経常支出　合計	27, 747, 133	25, 083, 000	17, 177, 001	2, 664, 133
経常収支差額	−15, 091, 633	−1, 258, 000	−4, 284, 025	−2, 503, 633
収支事業会計からの繰入収入	15, 000	0	15, 000	15, 000
前期繰越収支差額	20, 867, 053	25, 196, 310	25, 196, 310	
次期繰越収支差額	5, 809, 973	12, 127, 863	20, 867, 053	

(資料 4) NPO 法人 日本火山学会理事選挙規程（改定案）

下線部について改訂を行った．

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙規程（2003 年 10 月 12 日臨時総会承認）（2005 年 10 月 6 日一部修正）（2014 年 5 月 2 日一部修正）（2015 年 5 月 26 日改訂）

第 1 条　本規程は理事の選出に関する規程である．

第 2 条　理事は全会員による選挙で選出され，定款第 14 条 1 項に基づき総会で選任される．

第 3 条　被選挙権を有するのは，選挙の告示時における維持会員である．選挙権を有するのは，選挙の告示時における維持会員，学術会員，一般会員であり，各会員の投票権は平等である．

第 4 条　選出する理事の数は，理事会が選挙の公示以前に定款に定める範囲内で議決する．

第 5 条　理事の選出にかかわる選挙の公示は，理事会の議決を経て会長が行う．理事選挙の公示には，選出する理事の数，選出される理事の任期，立候補届の締切日，投票の締切日，選挙管理委員長名が示される．

第 6 条　理事選挙の運営のため，臨時委員会として選挙管理委員会を設置する．

1. 選挙管理委員会は，1 名の委員長及び 2 名以上の委員からなる．選挙管理委員長及び選挙管理委員は，会員の中から選出し，理事会の承認を経て会長が任命する．選挙管理委員会の委員長及び委員の任命は，選挙の公示以前に行なう．
2. 選挙管理委員会の任期は，任命を受けた時点で開始する．選挙管理委員会は，投票結果が総会において承認され，理事が選任された後に，総会の承認により解散する．
3. 選挙管理委員会は，立候補者の募集，選挙公報の配布，投票の実施および開票集計作業を行い，投票結果を総会に報告する．
4. 選挙管理委員会の委員長及び委員は，立候補できない．

第 7 条　立候補は自薦他薦を問わない．立候補者また

は推薦者は，立候補者および本会会員 3 名からなる推薦者の署名あるいは押印のある立候補届出書を選挙管理委員会に提出しなければならない．

第 8 条　選挙は無記名投票とし，第 4 条で定めた数以内の連記とする．

第 9 条　開票は選挙管理委員会が行い，会長が指名した 2 名以上の立会人がこれに立ち会う．必要に応じ，開票作業には補助員を加えることができる．また，会員は希望により開票に立会うことができる．選挙管理委員長は，開票作業に従事したすべての者の氏名及び役割を，投票結果に添えて総会に報告する．

第 9 条　選挙管理委員会による投票結果の報告に基づき，総会による承認を経て選挙結果が確定する．

1. 総会に報告される投票結果は，有権者数，投票総数，有効投票数，各候補者の得票数とする．
2. 得票が同数の場合は年少者を優先する．
3. 当選者が総会において不信任された場合，および辞退した場合には，次点者が順次繰り上がるものとする．

第10条　このほか，選挙の実施は別に定める選挙規定細目による．

附則

1. この規程は，2003 年 10 月 12 日より実施する．
2. この規程の変更は，理事会の議決を経て，総会で承認する．

（資料 5） 各賞選考委員会・候補者選考結果

1. 日本火山学会賞

秋田大学教育文化学部教授　林　信太郎氏

「キッチン火山実験による火山学の啓発普及活動」

東京工業大学大学院理工学研究科教授　高橋栄一氏

「高温高圧実験に基づくマグマの起源・地球の進化と火山活動の研究」

2. 日本火山学会研究奨励賞

山形大学理学部助教　吉村俊平氏

「火山噴火現象を支配する素過程についての実験的・理論的研究」

大阪市立大学大学院理学研究科准教授　柵山徹也氏

「背弧～超背弧域火成活動の成因に関する岩石学的・地球化学的研究」

名古屋大学大学院環境学研究科助教　前田裕太氏

「火山性地震の波形解析に基づく流体移動と噴火過程の研究」

3. 日本火山学会論文賞

伊藤順一・星住英夫・川辺禎久（2014）最近 5000 年間の九重火山における水蒸気噴火の発生履歴, 火山, 59，241−254.

Nakao, S., Morita, Y., Yakiwara, H., Oikawa, J., Ueda, H., Takahashi, H., Ohta, Y., Matsushima, T. and Iguchi, M. (2013) Volume change of the magma reservoir relating to the 2011 Kirishima Shinmoe-dake eruption —Charging, discharging and recharging process inferred from GPS measurements. Earth Planets Space, 65, 505−515

（資料 6） 各委員会事業報告

（1）　庶務委員会（下司理事）

1.　入退会希望・会員数について

2015 年 5 月 26 日現在の会員数は，維持会員 276 名，学術会員 648 名，一般会員 71 名の合計 995 名である．うち，団体の維持会員は 2 団体，一般は 14 団体である．

（2）　編集委員会

火山バックナンバーの PDF のカラー化公開を実施予定.

電子投稿に合わせた投稿規定・編集関係規程の改訂を検討している.

60 周年記念特集号の企画を行っている．2016 年 3 月発行の 60 巻 4 号を予定.

（3）　大会委員会

2015 年連合大会関連

以下の火山学会を提案母体とするセッションが行われている.

火山の熱水系, 活動的火山, 火山噴火のダイナミックスと素過程，火山防災の基礎と応用，火山・火成活動，ジオパーク，津波堆積物，Multidisciplinary volcano monitoring．ただし，共：ジョイントセッション，際：国際セッション．なお，Volatiles and volcanoes（際；McIntosh）は本学会母体でない火山学セッション.

2015 年秋季大会

下記の通り準備が進められている.

開催地：富山大学理学部（富山県富山市），LOC 責任者：石崎泰男（富山大学大学院理工学研究部）

共催・後援団体（予定）：富山大学・富山県などを予定

予稿受付：6 月 29 日（月）～7 月 30 日（木）（郵送～7 月 24 日）

期日：学術講演会 9 月 28 日（月）～9 月 30（水），普及行事（公開講座，防災シンポ）9 月 27 日（日）

現地討論会 10 月 1 日～2 日（立山），ジオパークセッ

ション（9 月 28 日午前）
備考：9 月 26～27 日は富山大学理学部の一般公開が予定されている
2016 年開催案
2016 年度秋季大会開催案が理事会で認められた．
期日：学術講演会 10 月 13 日（木)-15 日（土）予定（参考：地震学会 10 月 5-7 日，地質学会 9 月 10-12 日）
場所：富士吉田市市民会館富士山ホール（富士急月江寺駅から徒歩圏内）
共催･後援：富士吉田市，山梨県（予定）
LOC 責任者：吉本充宏，メンバー：内山高，常松佳恵，馬場章，石橋秀巳，萬年一剛，嶋野岳人
巡検 1：富士南東麓（宝永火口）12（水），巡検 2：北麓（雁の穴）16（日），公開講座：16 日（日）
2017 年以降の秋季大会の開催地決定の手続き等について公募日程の概要を決定した．2017 年以降について，立候補地（開催案）を広く募集することとなった．公募時期は開催の約 2 年前だが，大会委員会を窓口として事前に立候補する年度等の希望を聞いて調整を行う．今後 5 年ほど先までに開催立候補を検討されている方に相談を呼びかけることとなった．

(4) 他学会担当委員会
EPS 誌の出版状況について報告があり，投稿数が増加していることが報告された．火山学会からの事業分担金については昨年同様の 20 万円である．

(5) 国際委員会
アジアコンソーシアムの計画について報告された．本年秋（10 月～11 月初め）に第一回の Field Training Camp を桜島で開催予定である．

(6) 学校教育委員会
秋季大会において火山防災委員会と共同で，公開シンポジウムを開催する．「御嶽山噴火 1 周年～イザ！に備えた火山学入門」．科研費から 80 万円の交付が内定している．
地震火山こどもサマースクールについて，日本地震学会･日本地質学会と共催で実施する．2015 年度は南アルプスジオパークにて，8 月 8 日～9 日に開催予定．2016 年度は「南紀熊野ジオパーク」にて開催．サマースクールのあり方については 3 学会から委員を選出して議論中．

(7) 火山防災委員会
火山防災委員会の委員の変更を行う．青山裕会員を新規に委員に加えるほか，藤田英輔会員に代わり三輪学央会員を委員に加える．
内閣府防災担当主催の火山防災協議会等連絡・連携会議に参加した．また火山シェルターの WG に参画する．
地球惑星連合では，火山防災シンポジウムを開催する．5 月 27 日夜．
環境災害対応委員会のユニオンセッション（5/28）U-07 連合は環境･災害にどう向き合っていくのか？を開催．
7 月下旬に，火山防災コンピューティングワークショップを開催予定．

(8) 60 周年記念事業委員会
「火山」において特集号を企画中．
報告書については，1）学術の動向・(2）社会とのかかわり・(3）人材育成の 3 つの柱で準備中．
関連行事の企画：
(1) キャリアパスセミナー　～いま省庁や民間企業で求められる火山専門家人材とは？（5 月 27 日（水）11 時 30 分～12 時 45 分　於・幕張メッセ国際会議場　101B 号室）
(2) 京大防災研究所特定研究集会「火山学における人材育成―過去 20 年の振り返り今後 20 年を展望する-」（8 月 1 日（土)～2 日（日）於・京都大学宇治キャンパスおおばくプラザ　きはだホール）

特定非営利活動法人日本火山学会
平成 27 年度臨時総会議事録（案）

1. 日　時：平成 27 年 9 月 29 日
12 時 30 分から 13 時 30 分
2. 場　所：富山市・富山大学五福キャンパス黒田講堂ホール
3. 出席者：維持会員 55 名，有効委任状数 61 通，合計 116 名
4. 議　案：
1. 平成 27 年度事業経過報告の件
2. 議事録署名人承認の件
5. 議事の経過の概要及び議決の結果
出席者（委任状を含む）が 116 名で，維持会員 292 名の 1/3 以上である定足数 98 名を超えていることを確認し，議長（定款により学会の会長）が平成 27 年度日本火山学会総会の開会を宣言した．

(1) 第一号議案　平成 27 年度事業経過報告の件
平成 27 年度の事業について各担当理事からの報告（資料 1）に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した．

(2) 第二号議案 議事録署名人承認の件

議長より本日の議事をまとめるに当たり，議事録署名人2名を選出することを諮り，萬年一剛氏および藤田英輔氏を選出することを全員異議なく承認した．

以上，この議事録が正確であることを証します．

平成27年12月8日

議　　長　井口正人　印
議事録署名人　萬年一剛　印
議事録署名人　藤田英輔　印

(資料1) 各委員会報告

(平成27年度事業報告・平成28年度事業計画)

(1) 庶務委員会（下司理事）

1. 入退会希望・会員数について

2015年9月29日現在の会員数は，維持会員292名，学術会員683名，一般会員79名の合計1054名である．うち，団体の維持会員は2団体，一般は14団体である．

2. 理事選挙について

現在の理事の任期満了に伴い，2016年度理事選挙を実施する．選出数は定款に定める最大数15名とする．

高橋正樹会員を選挙管理委員長，森　俊哉・高田亮両会員を委員とする選挙管理委員会を設置する．選挙日程等については，選挙管理委員会が提案するが，1月上旬に選挙の公示，2月中旬に立候補締め切り，3月中旬に投票締め切りを予定している．

3. 会員名簿作成について

会員名簿が今年度末に発行予定であることが会員に周知され，名簿作成にあたって協力が呼びかけられた．

(2) 大会委員会（嶋野理事）

1. 2017年度秋季大会の公募について

2017年度秋季大会においては開催地を公募とすることが周知され，公募日程の紹介がなされた．10月5日～12月4日の間に，専用の応募様式に従って公募を受け付ける．

2. 2016年連合大会について

火山学会を提案母体とするセッション提案の募集が呼びかけられた．

3. 2016年秋季大会について

2016年秋季大会が，10月12日～16日（富士吉田市）での日程で開催されることが周知された．

会場：富士吉田市市民会館富士山ホール

LOC責任者：吉本充宏（山梨県富士山研究所）

期日：学術講演会10月13日～15日．現地討論会10月12日および16日．一般普及行事10月16日（日）．

共催・後援団体：富士吉田市・山梨県を予定

4. 学生優秀発表賞について

開催中の2015年秋季大会における学生優秀発表賞に関し，審査員へ迅速な審査のお願いがなされた．

(3) 国際委員会（藤田理事・中田理事）

1. アジア火山学コンソーシアム（Asian Consortium of Volcanology）のフィールドキャンプについて

アジア火山学コンソーシアムが，第1回フィールドキャンプの開催を予定していることが周知された．

2. IAVCEI小委員会報告

・IAVCEIのIUGGの脱退について，問題となっていた役員選抜の不公平性を改善する規約が制定される見込みとなったことを受け，IAVCEIとしては規約の改正を受け入れてIUGGに残留する方向となった．

(4) 火山防災委員会（吉本理事）

1. 火山防災パンフレットの発行について

2015年秋季大会の開催にあわせての発行を目指し，火山防災パンフレットの作成作業が進められ，大会初日に無事発行されたことが報告された．

(5) 他学会関連担当委員会（西村理事）

1. EPS誌について

・Springer Openとの契約において，投稿料が引き上げられる見込み．

・EPS誌のプロモーションビデオが作成中

(6) 学校教育委員会（萬年理事）

1. 国際地学オリンピックについて

来年度の国際地学オリンピックは日本での開催となる．

2. 地震火山サマースクールの紹介

来年は南紀串本にて開催予定であり，実行委員として学会から三浦大助，和田穣隆会員を推薦している．

(7) 原子力対応委員会（臨時）（藤田理事）

1. 原子力対応委員会の今後について

原子力対応委員会については，名称を変更して今後も活動を継続することとなった．詳細については本秋季大会中に開催される委員会で検討する．

日本火山学会 2015 年度秋季大会報告

日本火山学会 2015 年度秋季大会は，9 月 27 日（日）から 10 月 2 日（金）の日程で，富山大学五福キャンパスの共通教育棟および理学部棟で開催された．今大会は，富山大学理学部および一般社団法人立山黒部ジオパーク協会との共催での開催である．会場となった富山大学五福キャンパスは富山市の西部に位置し，市中心部（JR 富山駅）からバスや市電で 10〜20 分とアクセスも非常に便利であった．会期後の野外討論会は，10 月 1 日（水）と 2 日（木）に立山で実施した．また，会期前の 9 月 27 日（日）には，一般社団法人立山黒部ジオパーク協会によるジオツアー・黒部川の峡谷（黒薙温泉）と扇状地（みずはくツアー 2015）が実施された．一般公開行事として，火山防災シンポジウム「御嶽山噴火から 1 年〜イザに備えた火山学入門〜」，第 22 回公開講座 ―親子で噴火実験―「噴火から身を守ろう！」を 9 月 27 日（土）にそれぞれ理学部棟会場において実施した．以下に 2015 年度秋季大会の概要を報告する．

1. 学術講演会

a. 概要

今大会の学術講演会は 9 月 28 日（月）から 9 月 30 日（水）まで実施され，91 件の口頭発表と 96 件のポスター発表，5 件の記念講演が行われ，参加者数は 304 名（会員 207 名，学生会員 46 名，シニア会員 11 名，非会員 30 名，学部生（非会員）10 名）であった．学術講演は全て五福キャンパスの共通教育棟で行われ，口頭発表が C21 教室（A 会場）と C11 教室（B 会場）の 2 会場，ポスター発表が A21 教室と A23 教室の 2 箇所を利用して行われた（写真 1）．企業展示会場は A22 教室を使用した．9 月 28 日（月）午前に公開セッション「ジオパーク」を A 会場で開催し，口頭発表 8 件，ポスター発表 2 件，計 10 件の発表があった．学生優秀発表賞では，学生による口頭発表 16 件，ポスター発表 20 件の計 36 件を対象として 27 名の審査員が厳正な審査を行った．その結果，下記の 4 名が受賞した．

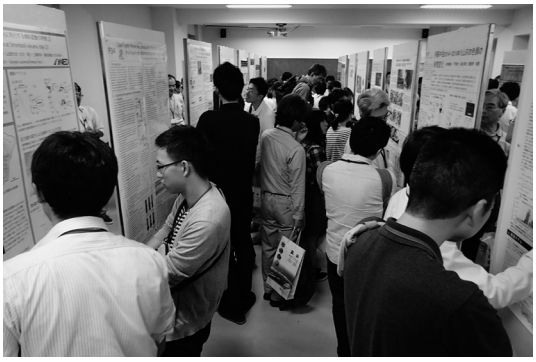

写真 1．ポスターセッションの様子
（撮影：増渕佳子）．

黒川愛香 さん（東京大学大学院理学系研究科）
「1986 年伊豆大島噴火の噴火様式変化に伴う二種類の火山性微動」

入山　宙 さん（九州大学大学院理学府）
「噴煙からの粒子分別と移流輸送を考慮した 2 次元降下・堆積プロセス」

菅野　洋 さん（東京大学大学院理学系研究科）
「液体−空気互層スラグ流にみられるノコギリ波状圧力変動：装置改良」

関　香織 さん（東京工業大学火山流体研究センター）
「立山地獄谷の熱水系」

最終日，各賞選考委員会委員長の井口正人会長から受賞者に表彰状と記念品が A 会場で手渡された．続いて，井口正人会長から閉会の挨拶が述べられ，晴天に恵まれた 3 日間の学術講演会が終了した．

（石﨑泰男）

b. 各賞受賞者記念講演会

9 月 29 日（火）の臨時総会後に，火山学会賞（林信太郎会員および高橋栄一会員）と研究奨励賞（吉村俊平会員，柵山徹也会員および前田裕太会員）の記念講演が行われた．講演タイトルは以下の通りである．

林信太郎「キッチン火山実験と火山学の普及」
高橋栄一「マグマ溜り学のすすめ：迫りくる火山活動活発化に備えて」
吉村俊平「火山噴火現象を支配する素過程についての実験的・理論的研究」
柵山徹也「玄武岩から読み取るユーラシア大陸東縁部背弧域上部マントルの熱・物質循環過程」
前田裕太「火山性地震の波形解析に基づく流体移動と噴火過程の研究」

今回は，例年になく計 5 名と多数の方々が受賞されたことや，本講演会の後に，日本火山学会創立 60 周年記念式典が行なわれたため，学会賞受賞者は一人 30 分，研究奨励賞受賞者は一人 20 分と，講演時

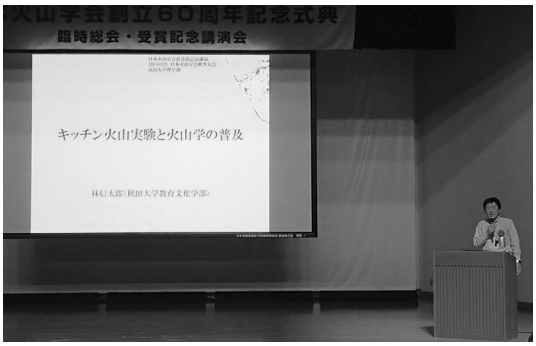

写真 2. 受賞記念講演をする林会員
（撮影：松島　健）.

写真 3. 創立 60 周年記念式典で講演をする荒牧会員
（撮影：増渕佳子）.

間を短く設定せざるを得なかったのが残念であった．それにも関わらず，火山学会賞のお二人はこれまでの長年にわたる研究および活動の成果と共に，これからの火山学発展を支える若い人たちへのメッセージを熱く語って頂いた（写真 2）．一方，研究奨励賞を受賞された 3 人の方々は，自分の研究に対する熱い思いと共に，これからの自らの研究に対する抱負だけでなく，火山学発展に寄与したいという思いを，それぞれの言葉で語って頂いた．

（宇都浩三）

c. 日本火山学会創立 60 周年記念式典

受賞記念講演に引き続く 15：15–17：15 に富山大学黒田講堂ホールにて，日本火山学会創立 60 周年記念式典を開催した．まず井口会長から，最近の火山学会を取り巻く状況の変化とそれを踏まえて学会のあり方を考える必要性について述べた開会挨拶があった．次いで，庶務委員会担当の下司理事から，「最近の学会活動の推移について」の講演があり，学会員数，秋季大会参加者数，発表数，「火山」掲載論文数等の変遷や内訳の紹介と，その変化の要員等についての紹介があった．荒牧名誉会員からは，「火山学会 60 年」と題して，1956 年創立の現在の火山学会の前身である，1932 年に創立された学会の紹介から，戦後の学会活動の再開を経て現在までの，国内外の学会活動や社会の変化についてご紹介いただいた（写真 3）．特に直接の体験に基づく 1956 年の創立当初からの 60 年間の学会の歴史は大変貴重なお話しであった．次いで 60 周年記念事業委員会で進めている，火山学の現状把握と今後推進すべき課題と方策についての紹介があった．まず，奥村会員から「最近 20 年の火山学研究の変遷」として，学術論文数や科研費獲得数には最近 20 年間では日本の火山学の占有率には大きな変化はないが，周辺研究分野との分野横断的研究や国際協力が進展しているとの報告があった．60 周年事業委員会担当の市原理事からは「60 周年事業委員会での試みと将来に向けての提案」として，今までの事業委員会の様々な活動とそこから明らかになった課題の紹介があり，人材育成や学会内外の交流促進の場としての学会の機能の強化の必要性等が提案された．

（篠原宏志）

d. 火山学会創立 60 周年記念祝賀会

9 月 29 日（火）18：30～20：30 に富山電気ビルディング 5 階大ホールで行った．開宴宣言のあと，井口正人会長の挨拶に続き，富山大学学長 遠藤俊郎氏，一般社団法人立山黒部ジオパーク協会会長 中尾哲雄氏からの祝辞を頂いた．荒巻重雄氏，浜口博之氏，平林順一氏，横山　泉氏，4 名の名誉会員の紹介の後，鏡開きが行われ（写真 4），参加者（148 名，うち招待者 4 名）が富山の味に舌鼓を打ちながら親睦を深めた（写真 5）．宴もたけなわとなり，本年度の日本火山学会賞を受賞した林信太郎氏，高橋栄一氏，研究奨励賞を受賞した吉村俊平氏，柵山徹也氏，前田祐太氏，論文賞を受賞した伊藤順一氏，中尾　茂氏より挨拶をいただいた．引き続き，2016 年 9 月に富士吉田市で開催される秋季大会 LOC を代表して，山梨県富士山科学研究所の吉本充宏氏から大会へのご招待の言葉があった．最期に，富山県出身の中田節也氏から挨拶があり，盛会のうちに火山学会創立 60 周年記念祝賀会を終えた．祝賀会開催では，歴代会長より多大なるご支援を賜りました．記して感謝致します．

（楠本成寿）

写真 4. 歴代会長による鏡割り（撮影：松島　健）

写真 6. 弥陀ヶ原火山の称名滝で記念撮影（撮影：伊藤順一）.

写真 5. 議論を深めた懇親会の様子（撮影：楠本成寿）.

写真 7. テフラ露頭の前での議論（撮影：石﨑泰男）.

e. 団体展示

学会期間中，10 団体（株式会社近計システム，サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社，産業技術総合研究所，メイジテクノ株式会社，白山工業株式会社，ジオサーフ株式会社，測位衛星技術株式会社，ジオガシ旅行団，株式会社パスコ，信濃毎日新聞）の企業展示が行われた．企業展示の場所は，A 会場やポスター会場に隣接させ，会員への周知に努めた．

（石﨑泰男）

2. 現地討論会とジオツアー

a. 現地討論会

「立山」は，10 月 1～2 日の日程で，中野　俊会員，奥野　充会員，石﨑泰男会員の三名の案内のもと，案内者含め総勢 22 名で行われた（写真 6）．10 月 1 日から 2 日にかけて，天気は急速に発達した爆弾低気圧により全国的に大荒れとなり，立山もその例外とはならなかったが，一カ所を除いてほぼ予定通りのコースを周ることができた．

1 日目は，学術講演会終了日の翌日 8：30 に富山駅前北口に集合し，貸し切りバスで室堂山荘に向かった．途中，大観台より日本一の落差 350 m を誇る称名滝を遠望した（10：00）．称名滝は全層厚が約 450 m の溶結した火砕流堆積物の台地が称名川により侵食されてできた滝であり，火砕流堆積物の一部は節理が発達していた．室堂山荘で昼食をとったのち，12：00 に山荘を出発．火山ガスにより立ち入り規制されている立山地獄谷内の 4 露頭をガスマスク，ゴーグルをつけながら観察した．まず新大安地獄にて水蒸気噴火の火口と最新噴火と考えられている水蒸気噴火のテフラを観察した（13：00）（写真 7）．次に鍛冶屋地獄にて，パホイホイ状とアア状の硫黄溶岩を観察した（14：00）．活発な噴気地帯であ

る紺屋地獄を通り，地獄谷の北東部で水平に成層するものから見事な褶曲構造のある縞状の湖成堆積物を観察した．最後に雷鳥荘北のテフラ露頭において，テフラ層の下部に埋積されている樹木の^{14}C 年代により 4700 cal BP と 2400 cal BP に噴出したと考えられている第 3 テフラ層と第 4 テフラ層を観察した（15：40）．山荘では雨で冷えた身体をお風呂と夕食で温め，夕食後は各人の自己紹介を行い，消灯時間 21 時まで，短い時間ながらも歓談することができた．

2 日目は 6 時に朝食をとり，しばらく天候を伺ったが，雨により周囲を展望できる状況になく室堂山展望台に行くことはキャンセルとなった．8：00 に山荘を出発し，称名滝に向かった．昨日からの雨で，称名滝一帯は幾本もの滝が姿を現し幻想的な風景となっていた（9：30）．しかし間もなく雨が降り出し，霧に包まれたため，火砕流堆積物の露頭は下部のみ観察した．その後，雨天時のオプションである立山カルデラ砂防博物館にて立山火山の成り立ちや，人と山が共に生きるための砂防工事などの展示物を見学した（11：00）．昼食後，立山山麓にあるライオンズの森の近くで第 2 期の称名滝火砕流堆積物の下部層と再区分された芦峅寺火砕流堆積物の露頭観察を行った（13：30）．時間通り 15 時に富山駅で解散となった．

音を立てて水が蒸発し続けている火口の縁に立ち，硫黄ガスが至る所から噴出している地獄谷を歩き，生きた心地がしなかったのは私だけだろうか．だが，これまで私が見たことがなかった熱水系が発達した火山の噴出物，例えば熱水変質によって生成した粘土やシルトからなる地獄谷のテフラ層や，1–2 mm/年で堆積する粘土層や砂礫層からなる湖成層，硫黄の堆積物を溶融することでできた硫黄溶岩，テフラによって埋められた樹木，立山カルデラ砂防博物館に展示してあった新湯の玉滴石は新たな火山の側面を教えてくれた．圧倒的な存在感の立山火山とその下で行われている物質の緻密な造形に魅了された巡検だった．

（無盡真弓）

b. ジオツアー

立山黒部ジオパーク協会主催のジオツアー「黒部川の峡谷（黒薙温泉）と扇状地（みずはくツアー 2015）」は，9 月 27 日（日）に日帰り日程で，君島勝，松木紀久代の二名の案内のもと，案内者含め総勢 17 名で行われた．天候に恵まれたこともあり，以下の予定していたコースを周ることができた．

写真 8. 黒薙温泉での集合写真
（撮影：立山黒部ジオパーク協会）

① 黒部渓谷鉄道黒薙駅～黒薙温泉（写真 8）：源泉の観察，昼食・入浴．
② 宇奈月～黒部市役所宇奈月庁舎：宇奈月変成岩（十字石片岩）と黒部川扇状地の観察，
③ 黒部市生地：湧水群の観察

（立山黒部ジオパーク協会　小西慶子）

3. 一般公開行事

a. 火山防災シンポジウム「御嶽山噴火から 1 年～イザに備えた火山学入門～」

富山大学理学部主催「サイエンスフェスティバル」との共催により，火山防災シンポジウムを 9 月 27 日（土）に理学部 2 階多目的ホールで開催した（写真 9）．火山学会の公開講座は，秋季大会に合わせた行事として 1994 年以来実施しているが，今年の公開講座は，奇しくも多数の犠牲者を出した御嶽火山の噴火から丁度 1 年となる 9 月 27 日に開催されることとなった．このことから，本講座では，登山家としても経験豊富な火山学者たちが考える，登山中の噴火災害対処法について紹介し，一般参加者との議論を深めることを目的として企画が立てられた．以下，各登壇者とその内容を紹介する．

中野　俊会員（産総研）は，「立山火山の歴史」と

写真 9. 満員の火山防災シンポジウム会場で講演する中野会員（撮影：理学部総務）.

写真 10. 公開講座―親子で噴火実験―の様子（撮影：増渕佳子）.

題して，ご当地の立山火山が古い岩石で出来た立山連峰の上に出来た火山体で，気象庁では弥陀ヶ原と呼んでいること，立山火山の噴火史と研究史，近年の調査研究で時として噴気が活発化することが明らかになったことなどを紹介した（写真 9）．及川輝樹会員（産総研）は「活火山の登山術～楽しみと危険～」と題して，日本の名山には火山が多く，登山者に火山の基礎的な知識が必要なこと，また登山者視点の火山防災マップを整備する必要性について話した．吉本充宏会員（山梨富士山研）は「噴石から身を守る～御嶽火山 2014 年噴火の教訓～」の題で，噴火後の御嶽火山現地調査の写真を多数示しながら，噴石被害の実態を述べるとともに，噴石から身を守る方法などについて紹介した．

講演のあとは質疑応答の時間が約 25 分間設けられた．会場からの質問ははじめ低調であったが，今回の講演以外にも質問を受け付けるとしたところ，徐々に手が挙がるようになり，会場にいた，藤井敏嗣（噴火予知連会長），北川貞之（気象庁），山里　平（気象研），青山　裕（北大），鈴木桂子（神戸大），森　俊哉（東大）の各会員が司会に指名され回答をした．質問は噴火の「規模」の定義について，「噴火」と「爆発」の使い分けについて，若い火山研究者の育成に関する実態と今後の見通しについて，噴火予知の今後の計画についてなど多岐にわたったが，それぞれの専門家の回答に会場に集まった 150 名の参加者は真剣に耳を傾けていた．

なお，シンポジウムの開催にあたり，日本学術振興会の平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表（B）（課題番号 15HP0013）」を使用した．

（萬年一剛・佐々木寿）

b. 第 22 回公開講座 ―親子で噴火実験―「噴火から身を守ろう！」

富山大学理学部主催「サイエンスフェスティバル」との共催により，第 22 回公開講座―親子で噴火実験―を 9 月 27 日（土）に理学部 2 階 A239 教室で開催した．行事の広報は，火山学会 HP の他，サイエンスフェスティバルのチラシおよび同 HP，事前記者案内で行ない，参加申込みはサイエンスフェスティバル HP から受け付けた．対象は小学生以上，定員は 30 名とした．事前申込は 22 件あり，当日は 25 名の小中学生の他，保護者，見学者，学会員らが参加し賑わった（当日受付含む）．

公開講座のテキストは，林信太郎（秋田大学），増渕佳子（富山市科学博物館），石﨑泰男（富山大学）が執筆し，レイアウト・デザインは岩渕美歩氏に依頼した．テキストは 1,500 部印刷し，大会中，サイエンスフェスティバル参加者や学会員に配布した他，残部は県内外の自然科学系博物館施設等に配布した．このテキストを学会ホームページから PDF ファイルとしてダウンロードできるよう現在準備を進めている．

当日のスタッフは，講師役として林信太郎と石﨑泰男，進行役として増渕佳子，実験補助として佐藤公（磐梯山噴火記念館），山口珠美（箱根ジオミュージアム），川口征司，馬場　章（山梨県富士山科学研究所），亀谷伸子，野寺　凛，山田来樹，木村竜平（富山大学），田口松男，牧　静枝，関野玲子，大野博美（一般社団法人　立山黒部ジオパーク協会会員）の 14 名であった．

はじめに，立山火山の成り立ちについて，子どもたちへの質問を交えながら解説を行い，立山火山で

は溶岩の流出や火砕流噴火が起こってきたことを解説した．その後，火砕流噴火のイメージをつかむために，水槽内で入浴剤（バスロマン）を使用した火砕流噴火実験を行ない観察した（写真 10）．また火砕流噴火では堆積物が地形の凸凹を埋め，平坦な台地が作られることを，紙粘土で作った立山の模型の上部から砂を流す実験により確かめた．その後，赤色立体地図などを使用し，弥陀ヶ原などの火砕流台地や地獄谷周辺の爆裂火口など，火山地形を解説した．立山火山は，現在は地獄谷周辺での噴気活動を活動の主体としており，今後水蒸気噴火が起きる可能性があることを紹介し，御嶽山で起きた 2014 年の水蒸気噴火を例に，水蒸気噴火ではどのような危険があるかを紹介した．御嶽山の噴火では噴石による被害が大きかったことから，グループごとに水蒸気噴火による噴石の実験を行った．この実験は，紙粘土で作った山の立体模型の火口から，自転車の空気入れとチューブを使用して紙粘土の噴石を飛ばすものである．参加者には，どのような場所に隠れれば噴石から身を守ることができるかを考えながら実験をしてもらい，噴火に遭った時にはどうしたら良いかを意見交換した．

火山をただ恐れるのではなく，噴火に遭った時にどうすべきが自分で考えることができるようになることが大切であり，その上で，山を登る楽しさや美しい景色を楽しんで欲しいことをまとめとした．最後に，参加者からの質問に答える時間をとり，地球の歴史の中で一番大きかった噴火は何か，なぜマグマが発生するのかなど，多くの質問が出た．会場に見学に来ていた学会員にも参加していただきながら，参加者と火山学者が対話を楽しんだ．

なお，本公開講座の開催にあたり，日本学術振興会の平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表（B）（課題番号 15HP0013）」を使用した．

（増渕佳子）

4. 大会運営を振り返って

今大会の会場は，富山市中心からのアクセスも良く，平日に開催したため，宿泊施設の確保も例年に比べ容易であったと思われる．講演会場も 200～300 人収容の教室を用いたため，窮屈な感じは受けなかった．ポスター会場と企業展示会場についても十分なスペースを確保できたと考えている．また，前年の御嶽山の水蒸気噴火や地元の弥陀ヶ原（立山）火山の現状についての関心も高く，マスコミや一般市民からも注目された学会であった．講演申し込みや参加者数も例年並みあり，本大会の各委員会の委員や多くの方々の協力により，無事に運営できた．今大会は，富山大学理学部との共催として開催されたため，特に一般公開事業では，マスコミを通しての宣伝，チラシの作成，立て看板の設置や会場の使用で多大の便宜を図って頂いた．また，黒田講堂や共通教育棟の使用にあたっては，大学職員に懇切丁寧に対応して頂き，滞りなく会場運営をすることができた．関係各位に謝意を表したい．

（石﨑泰男）

5. 秋季大会の実施体制

本秋季大会での実施体制は，以下の通りであった．

現地実行委員会：石崎泰男（富山大），竹内　章（富山大），渡邊　了（富山大），楠本成寿（富山大），増渕佳子（富山市科学博物館），及川輝樹（産総研），吉本充宏（山梨県富士山研），萬年一剛（神奈川県温地研），林信太郎（秋田大）

大会担当理事：嶋野岳人（常葉大学）

事務担当：田口理恵（火山学会事務局）

HP 担当：松島　健（九州大学）

火山防災シンポジウム：萬年一剛（神奈川県温地研），吉本充宏（山梨県富士山研），中野　俊（産総研），及川輝樹（産総研）

公開講座：林信太郎（秋田大学），石﨑泰男（富山大学），増渕佳子（富山市科学博物館），佐藤　公（磐梯山噴火記念館），山口珠美（箱根ジオミュージアム），川口征司（山梨県富士山科学研究所）

野外討論会：中野　俊（産総研），奥野　充（福岡大学），石﨑泰男（富山大）

大会委員会プログラム編集編成会議：嶋野岳人（常葉大学），下司信夫（産総研），松島　健（九州大学），萬年一剛（神奈川県温地研），吉本充宏（富士山科学研究所），田口理恵（学会事務局）

学生優秀発表賞審査員（所属，敬称略）：安井真也，伊藤順一，青山　裕，大場　武，金子克哉，神田径，三輪学央，宮城磯治，小林哲夫，田島靖久，小園誠史，栗谷　豪，並木敦子，小林知勝，武尾　実，中川光弘，前野　深，宗包浩志，菅原　透，大湊隆雄，佐伯和人，鹿野和彦，上田英樹，山本圭吾，松島　健，鈴木雄治郎，嶋野岳人